

III 火災編

火災概況 火災件数

1 火災概況

令和2年中の火災件数は195件(うち大阪狭山市10件)、焼損面積1,280㎡(うち大阪狭山市19㎡)、損害額は1億5,488万円(うち大阪狭山市217万5千円)となっています。

火災により焼損した棟数は183棟(うち大阪狭山市7棟)、り災世帯141世帯(うち大阪狭山市2世帯)、り災人員は315名(うち大阪狭山市6名)でした。また、火災による死者は5名(うち大阪狭山市0名)、負傷者は49名(うち大阪狭山市2名)となっています。

火災原因では、放火(放火の疑い含む)とこんろがそれぞれ23件(うち大阪狭山市0件及び2件)で最も多く、たばこが21件(うち大阪狭山市3件)で続いています。



火災現場で活動する消防隊

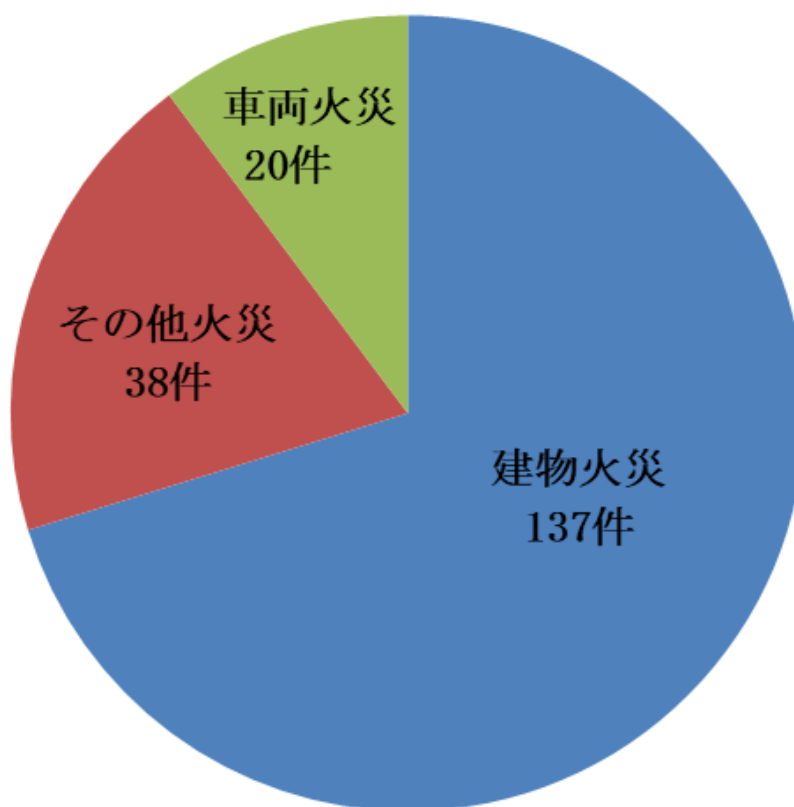
2 火災件数

火災件数 195 件（うち大阪狭山市 10 件）を火災種別毎に分類しますと「建物火災」が最も多く 137 件（うち大阪狭山市 5 件）発生しており、以下「その他火災」38 件（うち大阪狭山市 4 件）、車両火災 20 件（うち大阪狭山市 1 件）となっています。

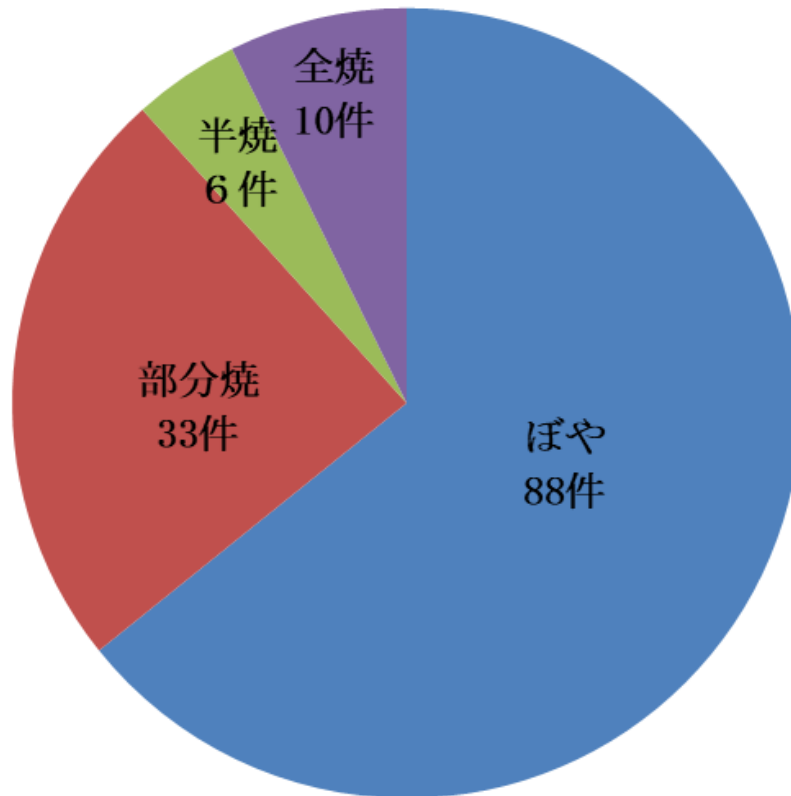
また、過去 10 年間における火災件数は、令和 2 年にあっては火災件数が前年より 9 件増加していますが、大阪狭山市を除くと前年より 1 件減少の 185 件であり、過去 10 年間で 1 番少ない数値でした。

火災発生件数の多い建物火災を用途別で分類しますと、住宅での火災が 89 件（うち狭山市 4 件）発生しており、住宅火災の発生率が 65% と高くなっています。

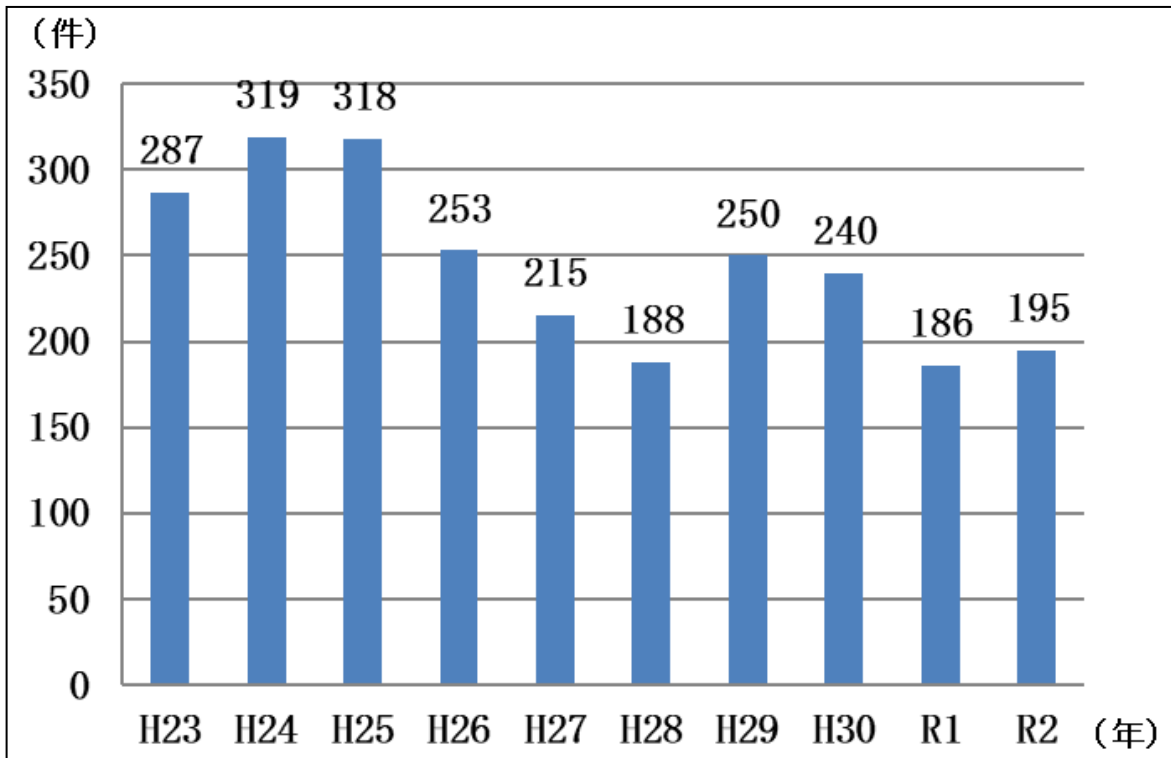
全火災（195 件）の火災種別毎の件数



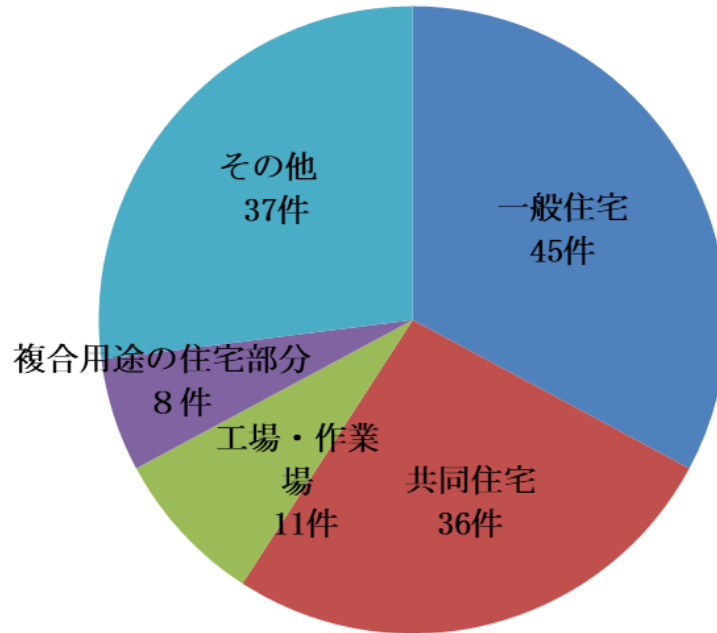
建物火災（137件）の焼損程度別件数



過去10年間の火災件数



建物火災の用途別火災件数



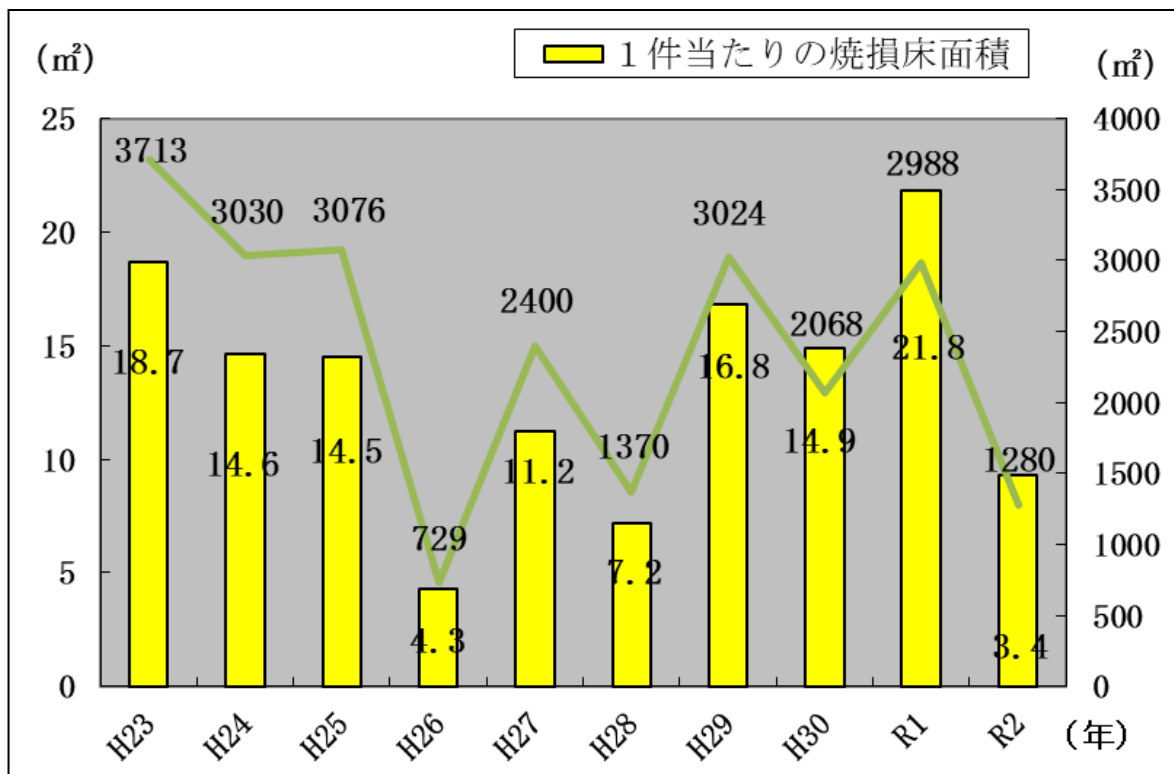
り災状況

3 り災状況

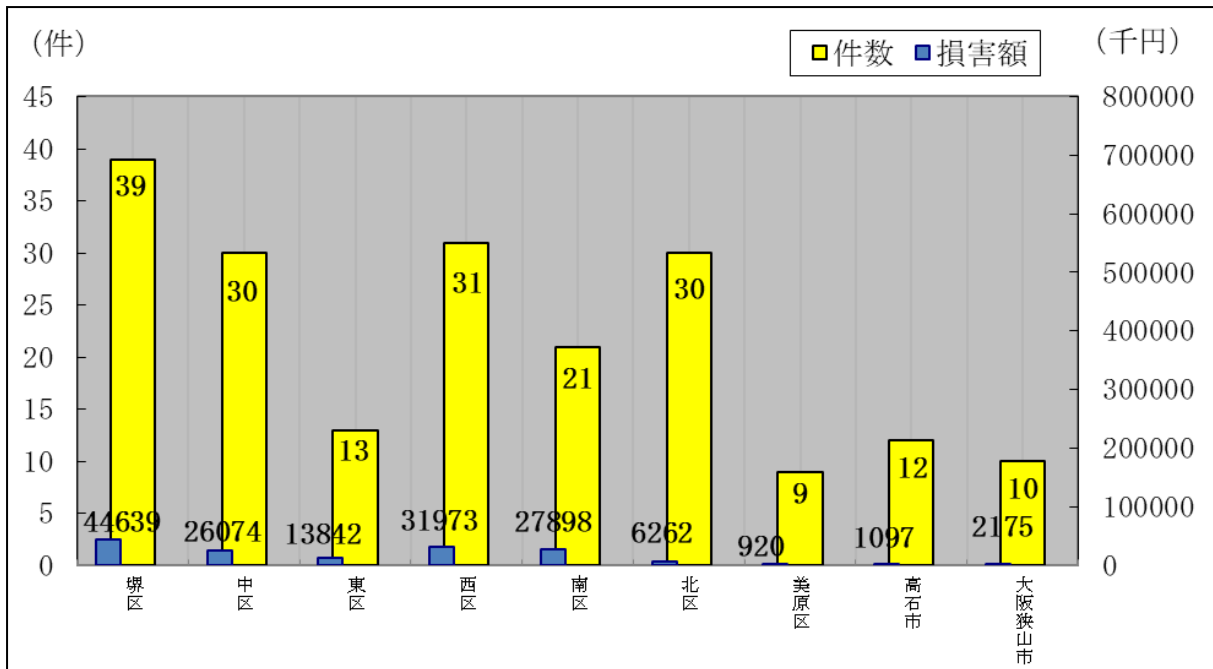
火災による焼損棟数は 183 棟（うち大阪狭山市 7 棟）、り災世帯は 141 世帯（うち大阪狭山市 2 世帯）、り災人員は 315 名（うち大阪狭山市 6 名）で、前年より焼損棟数は 21 棟、り災世帯は 35 世帯、り災人員は 79 名それぞれ増加しています。

焼損床面積は 1,280 m²（うち大阪狭山市 19 m²）で前年と比較すると 1,708 m²減少しています。また損害額の合計は 1 億 5,488 万円（うち大阪狭山市 217 万 5 千円）となっており、前年と比較して 2 億 8,278 万 9 千円減少しています。損害額が大幅に減少した理由については、一昨年（令和元年中）に工場等で大規模な火災が相次いで発生し、一昨年の損害額が一時的に増大したためと考えます。

過去 10 年間の建物火災における焼損床面積



管内別建物火災件数と損害額



原因別火災発生状況

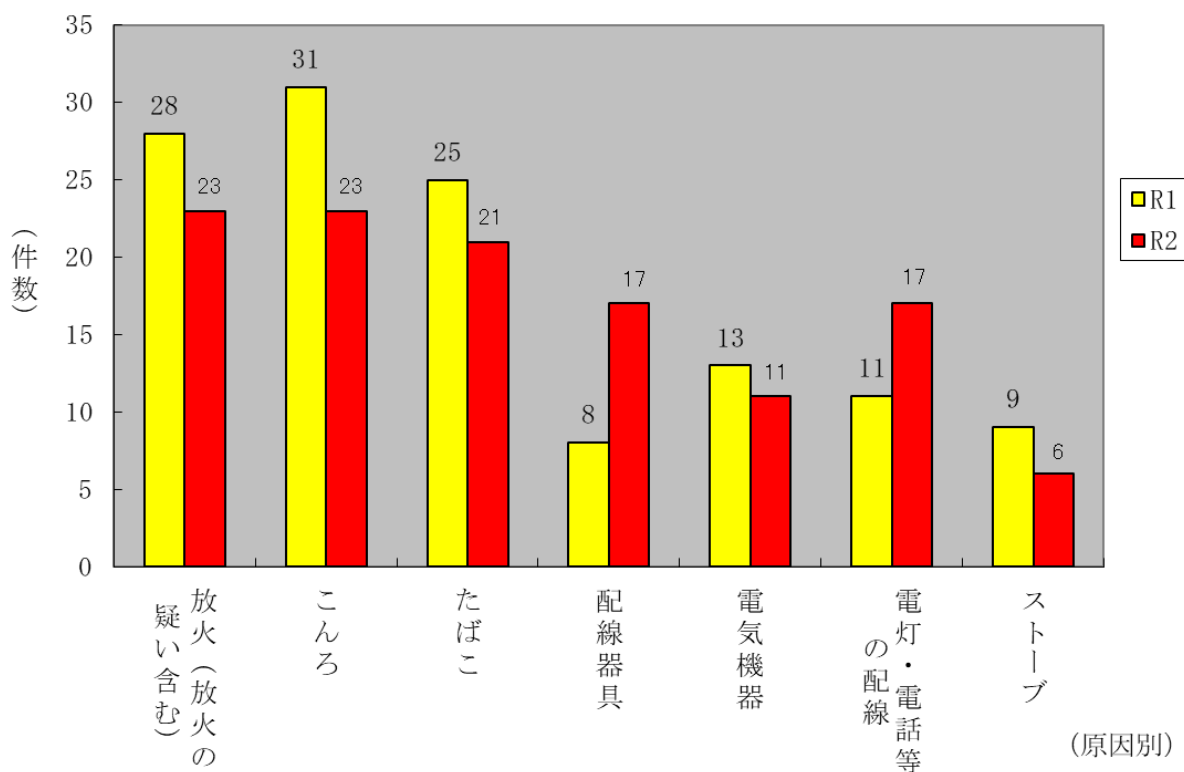
4 原因別火災発生状況

原因別火災件数は、放火（放火の疑い含む）とこんろがそれぞれ 23 件（うち大阪狭山市 0 件及び 2 件）で全体の 11.8%を占め、以下、たばこ 21 件（うち大阪狭山市 3 件）、電灯・電話等の配線 16 件（うち大阪狭山市 0 件）、配線器具 12 件（うち大阪狭山市 0 件）となっています。

火災原因の第 1 位である放火（放火の疑い含む）火災を減少させるために、今後とも引き続き「放火されない、放火させない」街づくりを進めていく必要があります。

また、こんろ火災を減らすためには、調理中は目を離さない、こんろの回りに燃えやすい物は置かない等を徹底する様にしなければなりません。

主な出火原因別火災件数



火災による死者数

5 火災による死傷者

(1) 火災による死者

火災による死者は5名（うち大阪狭山市0名）で前年と比較して2名増加しています。

ア 発生経過

死者の発生経過は、「逃げ遅れ」が3名、着衣着火が2名となっています。

イ 対象物別発生状況

死者の発生した建物火災の用途は、一般住宅が4名、共同住宅が1名となっています。

(2) 火災による負傷者

火災による負傷者は49名（うち大阪狭山市2名）で前年と比較して13名増加しています。負傷者の区分で見ると、応急消火義務者31名（うち大阪狭山市2名）、消防吏員1名、その他17名となっています。

火災種別毎では、建物火災で43名（うち大阪狭山市2名）、建物火災以外で6名（うち大阪狭山市0名）が受傷しており、負傷者の大半は建物火災で発生しています。

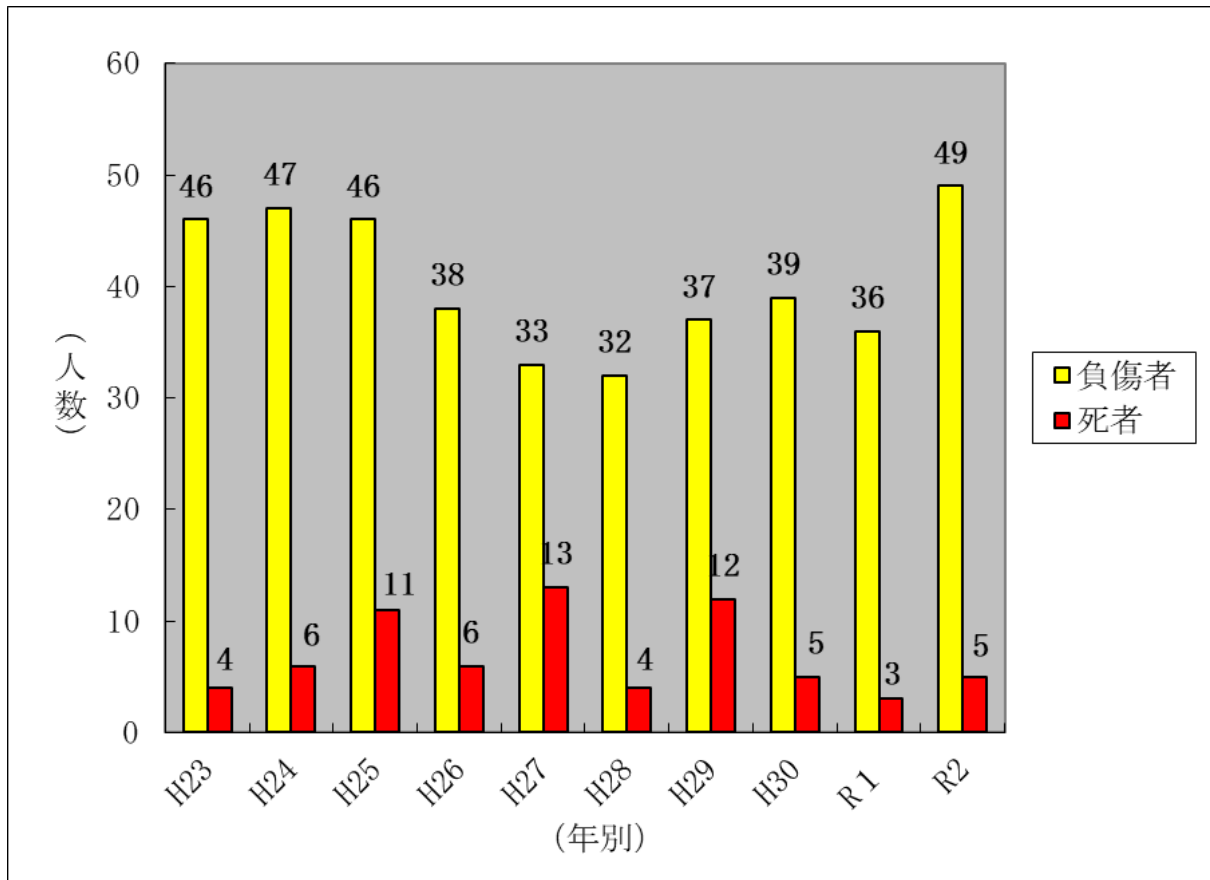
死傷者の性別・年齢別発生状況

年齢別	性別	死 者			負 傷 者		
		男	女	合計	男	女	合計
65 歳 以 上		2	0	2	5	8	13
50 歳～64 歳		3	0	3	3	2	5
40 歳～49 歳		0	0	0	4	3	7
30 歳～39 歳		0	0	0	1	5	6
20 歳～29 歳		0	0	0	2	5	7
10 歳～19 歳		0	0	0	2	2	4
10 歳 未 満		0	0	0	2	5	7
不 明		0	0	0	0	0	0
合 計		5	0	5	19	30	49

死傷者の性別・対象物別発生状況

防火対象物	性別	死 者			負 傷 者		
		男	女	合計	男	女	合計
一般住宅		4	0	4	6	13	19
共同住宅		1	0	1	4	5	9
複合用途の住宅		0	0	0	2	0	2
店舗・事務所		0	0	0	0	6	6
公衆の出入りする建物		0	0	0	0	0	0
社会福祉施設		0	0	0	1	1	2
学校・病院		0	0	0	0	1	1
工場・倉庫		0	0	0	1	1	2
車両・船舶		0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	3	5	8
合 計		5	0	5	17	32	49

過去 10 年間の火災による死傷者状況



その他事故の状況

6 その他事故の状況

統計外火災（火災発生後7日間を超えて通報してきた事後聞知の火災及び雑草や廃材、塵芥のみが焼損した火災）・警戒・誤報・虚報・応援（他市町村へ当消防局の車両が出場し活動したもの）・風水害としての出場をその他事故と称し、令和2年は1,298件（うち大阪狭山市77件）、1日平均3.6件の発生となり、火災による出場とは別にこれらの事故処理のため消防隊が出場し活動しています。

過去10年間のその他事故件数状況

